

『地域で創る土曜日「夢の学習」』

●地域教育活動の受け皿として

「夢の学習」は、甲賀市水口中央公民館の事業として、この4月から（開講5月）始まりました。参加・材料費は無料、参加意欲を優先し、定員を設けず市民が企画し、ボランティアで行う事業です。

三十数年前の勤務校での休み時間の事でした。同僚の先生から「子どもから100万円もらった。」とノートの端をちぎって書かれた100万円を見せてもらいました。聞いていると算数の学習が終わり、「先生、吉本（吉本新喜劇）より面白かった。」と言い、みんなが拍手する中100万円を渡されたというのです。学級指導に悩んでいた私には、うらやましく、夢のような話でした。

そこには、自由な判断が許される雰囲気があり、思いを表現し実現できる受け皿ができていたのです。

地域には、さまざまな課題があります。子どもに関係している課題も、地域でしか解決できない課題があるかもしれません。その受け皿として「夢の学習」を進めてきました。

「学校は、その役割を100%いや200%果たしています。今、担えていないのは、地域や家庭での教育です。」このことを正面から受け止め取り組んでいるのが「夢の学習」です。地域で子どもたちの思いが、ほんのわずかでも達成できる居場所ができればと思って進めています。

●夢の学習の取り組みと現状

「夢の学習」の開催日や講座のニーズは、市内A

小学校の協力により事前に平成27年12月にアンケート調査をしました。

当初は、青少年育成会が進めてきた取り組みと「囲碁」「将棋」等の講座。さらに、「綾野ゆうゆうクラブ（総合型地域スポーツクラブ）」で可能な「ニュースポーツ」「ハンドクラフト」「早朝登山」等の講座を含めた10講座（年間40回）の開催を考えていました。しかし、多くの地域の方の協力で、子どものニーズに合わせた講座が、平成28年2月当初には、45講座になっていました。

年間250回以上の教室を開くわけですから、平均3人から4人（多い講座は13人）で運営すると、スタッフだけで、延べ750人から1000人のかたのお世話になります。そのほとんどが、地域の高齢者です。

●地域課題解決にむかって

「夢の学習」を進めていくうちに、福祉課題の一つである高齢者の居場所について、考えるきっかけができました。高齢者の社会貢献活動として、いつまでも活躍できる高齢者の居場所です。甲賀市の福祉計画（平成27年3月）によると高齢化率は、平成27年25.5%と超高齢社会に突入しています。この高齢者23,662人の82.6%の約19,442人は要支援・要介護の認定を受けていない健康な高齢者です。

乳幼児から高齢者までの居場所を創ることで、「夢の学習」に様々な課題を見つけ出すことができないかと考え、多くの人の集まる場を常に考えてきました。

親子を対象として始めた「夢の学習」に乳児をおんぶし、講座を親子で受けている子育てで真最中の母親の姿を見ました。このような方への対応は、子育て経験のある高齢者が、暖かく優しく見守っていただけます。【写真1】



写真1

何か月かすると、スタッフからの声が届きます。ニュースポーツでは、「うちの子は不登校気味なのです。」と受付で母親が言ってきたこと。親子囲碁教室では、「突然男児が教室を飛び出していった。」こと。絵画教室では、障害のあると思われる男児が参加していたこと。もちろん一人親家庭の親子の参加もありました。

この現状から「夢の学習」は、障害者総合支援法の理念である障害の有無にかかわらない共生社会実現の場としての役割があることも再認識することができました。

現在、「貧困家庭や生活困窮家庭」の児童生徒の為の子ども食堂が全国的に広がっています。

「夢の学習」では、社会教育の一つとして、食育を兼ねた「親子料理教室」を実施しています。どんな環境でも食材を見つけて調理することができるということは、人間の生活に不可欠な学びです。年間を通して、夏、冬、春に合計8回。パン作り教室は128名参加の要望があり、5回実施してきました。

●新たな課題と活動

「夢の学習」の活動を通して、地域の様々な側面が見えてきます。この12月には、スタッフの要望もあり、「学習相談活動」を始めました。早速11月の案内配布の後、すぐに4名の方から直接申し込みがありました。このことも事前のアンケートの自由欄からも予想できたことでした【図1】。また、保護者から専門的な講座開催の要望もあります。

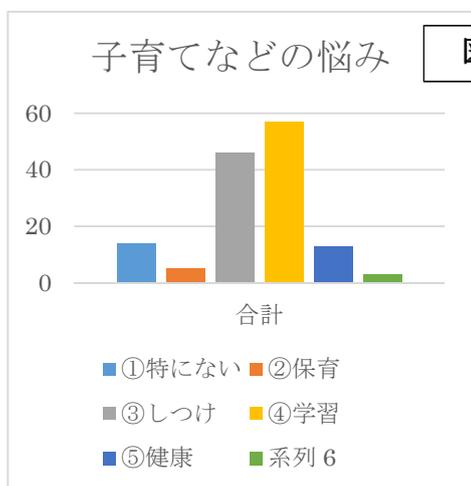


図1

講師が小学生の講座（「将棋」「けん玉」）、高校生の講座（「クッキー作り」「英語」）もできました。

資源ゼロからスタートした「夢の学習」は、年度末には、年間49講座、延べ4,000名（親子）を超える参加を得ることでしょう。

●今後の課題

次年度の課題は、情報の周知です。参加率は、11月現在で町内児童約2542名（5月1日現在）の13%、校区内児童408名（11月現在）の26%でした。また、より身近な課題によりそうためにも、学習相談から教育相談、地域相談など総合的な支援ができる関係機関との連携もとれるようにしていかなければなりません。また、資源の確保も大きな課題です。しかし、「夢の学習」ですから人権・福祉のまちづくりを目指すためにどこまでも「夢」を追い続けていきます。そんなスタッフ（60名）の集まりと行動力に本当に頭の下がる思いです。今後、学習への参加者、地域住民すべてが会員といえる「夢の学習」を目指していきたいと思っています。